



おくやま けんぞう
奥山 謙三 議員

町歴史民俗資料館を 若あゆ温泉地内に移設を

移設は考えていない



猿羽根山に来たらぜひ寄ってください

【質問】 若あゆ温泉付近は、広場、グラウンドゴルフ場や最近オープンした「ラ・テール」や「マツシユルームスタンド」があり、町一番に賑やか場所となっており交流人口が多い地区となつています。縄文の女神を活用した、町のPRと交流人口

の拡大、さらには若あゆ温泉地内の賑わいを創出し、縄文の女神の里帰り実現のためにも、温泉地内の「ふれあい広場管理棟」への移設を行い、より多くの方々に触れて良さを実感して貰うためにも検討すべきと思うが、町長の考えは。

【町長】 町歴史民俗資料館の移設につきましては、民俗資料館が管理棟と資料棟が一体となつての資料展示施設であること、また収蔵及び公開している展示物のボリュームなども考慮し、「ふれあい広場管理棟」への移設は考えていません。

引き続き、町民の文化的向上と、歴史を伝える学習の場となるよう運営していきます。

【質問】 入館料は有料となつていますが、入館者は少なく財政にも寄与していない。手間を考えれば、無料でも良いのではないかと。

【町長】 町でも現在検討しています。

灯油購入費助成を

全世帯に

経済対策の一環として検討

一環として検討

【質問】 原油価格高騰が続き、灯油価格は対前年比で、大きく値上がりしている。大幅な価格上昇は家計に大きな打撃を与えていることが想定される。低所得世帯への灯油購入費の一部補助事業を参考に、町独自で全世帯に助成すべきと思うが、町長の考えは。

【町長】 原油価格の高騰は、家計だけでなく、商業者や農業者にも影響を及ぼすことが懸念されることから、灯油購入費に限定した助成や全世帯を対象にした助成は考えていません。現在、国において新型コロナウイルス経済対策について検討されており、今後の国の動向を踏まえながら経済対策の一環として検討していきます。



見てさわって体験してね！



増やそう！認知症サポーターのリストバンドを！

【町長】 町で実施している認知症対策としては、まず、「認知症初期集中支援推進事業」があります。これは、認知症サポーター医師と医療や介護の専門職がチームとなつて対策や相談を行い、適切な医療や介護サービスにつなぐための支援を行う事業

です。これは、認知症対策の成果の一つとして、介護サービスを必要としない元気な高齢者が比較的多い状況につながっているのではないかと分析

しています。当町でも高齢化が進む中、各種の認知症対策事業と、町の重要施策である「100歳元気プロジェクト」もあわせて推進

することで、認知症予防と健康寿命の延伸を図り、いつまでも住み慣れた地域で元気に暮らすことができるように取り組んでいます。

【質問】 高齢化社会へのスピードが加速するなか、2020年では65以上の認知症患者と有病率は全国で602万人、16・7%であり6人に1人の割合になっていきます。将来的推計では25年で約700万人に達すると推測され、5人に1人が認知症患者になると見込まれています。認知症は誰もがなりうる病気と言わ

れ、本町でも「山形県認知症施策推進行動計画」に基づき、様々な事業を展開しています。これまでに実施してきた認知症初期集中支援推進事業、認知症地域支援・ケア向上事業の事業成果の評価と分析を行い、適切な対応と予防策を確立し、町民の健康寿命延伸を目指すべきであると考えます。町長の考えを伺います。

であります。次に、「認知症地域支援・ケア向上事業」ですが、これは地域における認知症予防や認知症のケアを向上させる取組みで、当町では「認知症サポーター養成講座」や「認知症力フェ」などがあります。その事業成果は、毎年、地域包括支援センター運営協議会に報告し、三年ごとに策定する介護保険事業計画にもその取組みや成果を反映させ計画を策定しています。その結果として、介護保険料も据え置きという状況になっていきます。これは、認知症対策の成果の一つとして、介護サービスを必要としない元気な高齢者が比較的多い状況につながっているのではないかと分析



認知症対策講演会「さくらんぼカフェ出張交流会」



さいとう よしひこ
斎藤 好彦 議員

認知症対策事業の成果は

元気な高齢者が増えている